



2016.7.12.TU
東京キャラバン

白馬アイデアキャラバン便り

HAKUBA IDEA CARAVAN LETTER



東京アイデアキャラバンについて

東京アイデアキャラバン

- 【日時】2016.7.12.(火)
- 【場所】Yahoo!Japan社員食堂BASE6
- 【スケジュール】
- 白馬村長よりご挨拶
- 総合計画の策定状況について
- 鼎談「これからのむらづくり」
- 意見交換「豊かな生活とは」
- 発表・講評
- 今後の流れについて

白馬村では現在、今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」のうち、前期5年間の基本計画の策定を進めています。2015年度から村内にて、将来の村づくりについて意見交換をしてきました。東京キャラバンでは、白馬出身者や白馬ファンを中心に、都市部と白馬村を比べた豊かな生活について意見交換を行ないました。

白馬村長より



白馬で生まれ育った人や白馬が好きな人に沢山お集まりいただき嬉しく思います。近年では、長野オリンピックやインバウンドの影響もあり国内外から注目される「世界の白馬」と呼ばれるようになりました。本日は、村外からの目線として忌憚のないご意見をいただければと思います。

策定状況について

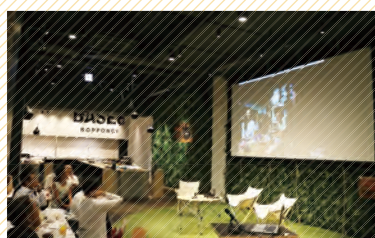
総合計画は、今後10年間の村の基本方針となる「基本構想(2015年3月議会承認済み)」と具体的な動きを示す「基本計画」から成ります。基本構想のテーマを「白馬の豊かさとは何か-多様であることから交流し学びあい成長する村-」としました。四季折々の自然の美しさ、青鬼集落の伝統保存地区、観光地としての発展、最近では国際観光科もでき、多様な環境があります。これからの白馬の豊かさを問い続け、多様性を活かしながらも、観光産業による変化の激しい環境をみんなで考えていくという想いが込められています。

7/12
東京キャラバン
8/6-7
白馬キャラバン
2016年9月頃
総合計画策定



ポイント 東京と白馬村をウェブカメラでつなぎました!

白馬キャラバンでの様子が共有され「住民ひとりひとりで多様な考え方を持っていて、これからはみんなで協力しあって白馬村を盛り上げたい」といった意気込みが話されました。



鼎談



写真左から山崎氏・下川氏・宮坂氏

「これからのむらづくり」をテーマに、白馬村長の下川氏、白馬村と連携協定を締結したYahoo株式会社代表取締役社長の宮坂氏、白馬村の総合計画策定支援を行っているstudio-L株式会社代表取締役社長の山崎氏による鼎談を開催しました。

—白馬の魅力や豊かさとは？



さっきネット越しに繋いだ白馬のみんなはおしゃれでニューヨークと繋いでいるといってもおかしくありませんでした。村だからどうというのはなくて、東京も白馬も同じような環境がある時代だからこそ、これからどんな可能性があるのかを話してみたいと思います。



白馬はいま、国内外から注目をされ、多くの人に来ていただいています。これは人の豊かさのひとつと言えます。白馬は、観光地であるからこそ、様々なスキルを持った人材と共に築いていくことが大事です。一方で、グリーンシーズンの集客の課題があります。日本広しといえど高山植物が350種類もあるのは白馬ぐらいです。数多くの財産を活かし、素晴らしい白馬になっていくにはみなさんのお力が必要です。





白馬の人たちが外から「いいね!」といわれていることを自覚し、そこを伸ばすことで、外からの共感を得られ、村にある資源をきちんと使いこなせていくんだと思います。村長から山岳景観の美しさ、そして多様な高山植物の存在や冬のスキーなどの話を伺いました。いまはそれを目指して世界中から人が来て、そういった多様な人たちと交流し学べるのが白馬の魅力ですよ。




僕はまちづくりの専門家ではないので企業の経営者という立場から話します。ビジネスではよくライバルとの差別化を考えますが、一方で差異化も大事です。例えば、あるスキー場にリフトが6本あればこっちは7本つくる、これは差別化です。差別化はきりがありません。差異化は真似をするのではなく独自のことを磨きまくることです。白馬には、絶対に真似できない山岳景観、人と山の距離感、生物多様性、気候があります。この4つを崩さない取組みを進めるのが大事になるはずですよ。


—白馬高校国際観光科のねらいとは？


 白馬高校に新しく国際観光科ができましたが、あれは高校生の時から自分にしかできないことを学ぶといったねらいがあるのですか？


 国際観光科ができるまで、2年連続で定数を割る危機に陥っていました。オリンピック選手を数多く輩出した白馬高校がなくなることは大変だということで、全国から生徒を募集し、英語と観光を学べる科を設立しました。大学は村外へ出て、卒業後は白馬に帰ってきて働いてもらえれば地域の活性化になると考えています。

 3年間全国の人たちと学び合っ、白馬の唯一無二な差異化を図れるようなネタをみつけて、大学は外で学んで、帰ってくると事業を起こせる、そんなレベルの高い取組みができそうですね。


—Yahooの地域での取組みとは？


 Yahooは様々な地域で取組みをされ、さらにそれを加速させると聞いたのですが、具体的にはどんなことをされているのですか？


 白馬をはじめ、被災地の復興支援などを行っています。eコマースのクライアントが100万人いるとすればその内90%が地方になります。グローバルビジネスと小さなローカルビジネスがあり、ローカルの要素が強いと、海外の影響を受けにくい強みがあります。白馬村はグローバルな要素を持ちながらもローカルの要素を大事にしてほしい。


 白馬村はすでにグローバルな要素とローカルな要素を持っていますよね。ヨーロッパやアメリカで何かが起きようとローカルの部分はそんなに影響を受けませんね。Yahooがやっているようにグローバルとローカルな要素をどう融合させるかが大事なんでしょうね。

—もっとこうしたらよいと思うこと

 たまには射程距離を100年にするようなことをやってもよいのではないかと。企業でやるような3年や5年計画というのはどうしても当事者意識がでてしまうが、30年も経てばほとんどが辞めていますよね。最近のビジネスは変化が激しく、白馬村も100年後に観光業がうまくいっているかは分かりません。もちろん、観光業はいまはやるべき事業だし、村は永遠に続かないといけないものだからこそ、孫やひ孫の世代がどんなイメージの村だとよいかを考える必要があります。

 総合計画は10年の計画だが、一度100年後の観光の形態などバックキャストを考へてから、手前に引いてくるということ、この10年の計画に組み込めれば視点が広がるかもしれませんね。

 未来の予測は、短期ほど難しく、長期ほど簡単です。来年の出生率は分かりませんが、100年後に人口が減少していることはほぼ確定していますよね。どうしてもいろんな情報が入ってきてきりがないですが、まずは何をやるべきなのかを考えないとはいけません。山岳景観を改善するなら白馬にしかないものを見定めて、よく考えてやっていく必要があるのではないのでしょうか。

 冒頭で宮坂さんがおっしゃったように、差別化しようとしてリフトを5本6本としていくと山岳景観が崩れ何をしていたのかとなりかねませんね。白馬住民はもちろん、白馬を応援する方も、未来を見据えて、白馬の魅力を長いスパンをかけて考えていかなければいけませんね。

ワーク①




自己紹介を交えながら、ワーク①では「豊かな生活」について、ワーク②では東京ではできないが「白馬村でできる豊かな生活」についての意見交換を行いました。


ワークであがった主なキーワード


ワークであがった意見を、「基本目標の4つの軸」と、鼎談であげられた「ローカル・グローバル」という視点から整理しました。

	ローカル	グローバル
産業	自然と情報社会／やりたいことができる／通年できる仕事をつくる／観光業と農業／サテライトオフィス	白馬でも最先端の先進的な仕事はできる／外からの人もお店を出しやすい／人材豊富
自然	自然をコンパクトに体験できる／都会と自然のバランスがある／ストレス解消／季節感がある	世界にここだけしかない自然がある／パウダースノー／生きる体験ができる
ひと	誰かに必要とされる／受け入れる心を育てる／子育てに最適な環境／みんな親戚みたいな受容性	外国人など違うことを知れるのが楽しい／交際国流の場／コアなファンが存在する／インターナショナルスクール
暮らし	不便こそ豊か／何もないけど心が満たされる／人間らしい生活／デュアルライフ／時間に追われない生活	白馬に住むと海外が身近／選択肢が多い／白馬で留学／外国人を受け入れる気質が比較的高い


発表 (一部の発表者を抜粋して掲載)


 観光客の増加は、村の魅力を伝えているだけで地力の向上にはなっていません。住む人が増え、エネルギーに暮らせているかが大事です。また、高校生は学校という限られたコミュニティにいるため、外国人との交流の機会はありません。村民が気軽に交流できればと思います。


 豊かな生活＝ストレスフリーという言葉に集約されました。東京と比較すると不便なことは多々あるが、山の景観がそれをカバーするほど素晴らしいです。平日は東京で稼ぎ、週末は白馬でストレスを解消できるような、ダブルライフの場が求められていることが分かりました。

 白馬の豊かさを盛り上げる株式会社白馬があればよいのではといったことがあげられました。白馬もディズニーランドのようにいけば楽しいと思ってもらうには、住んでいて不便なことは村の中だけに留めて、観光に来てくれるお客さんにはみんなが口を揃えて「白馬はいいよ」といえばさらに盛り上がるのではないかと思います。

講評

 白馬は、豊かさを量的に増やさなくても享受できるポジションにいることが面白いですね。日本のGDPは中国に負けているが、ひとりあたりの豊かさは圧倒的に勝っています。村全体の人口総量よりも、ひとりあたりがどうなのかが重要です。インバウンドが加速し、人が5倍に増えたら村はどうなるのかといったリスクも村だからこそ潜んでいます。

 かつては、冬に働けば1年中遊んで暮らせる時代もありました。産業を活性化するには沢山の人が来てもらう必要もありますが、白馬に来てよかった、そして都会へ帰って気持ちよく仕事をしてもらえながこれからのキーポイントになることを感じました。

 次の時代に向けてビジョンを描く必要があります。多様な働き方ができる時代だからこそ、描いたビジョンの中でどんな働き方や暮らし方ができるのかを考えないとはいけません。一方で1945年、農村人口が8割、都市人口が2割だったのがこの70年で逆転しました。いま都市にいる6割は地方にいた人の子孫であり、この親たちは地方のコミュニティの中で育ってきました。その子孫たちは、都市の生活の中で親の教育と社会とのずれを感じているはずで、田園回帰といわれるいま、このチャンスを逃さないようにすることが白馬に求められることなのではないでしょうか。

ポイント 白馬の食材をつかったメニューを楽しみました

おやき、紫米、村男III世バーガー、はくばの豚、ほおずきジュース、ブルーベリージュースを食べながら、鼎談やワークショップをしました。おいしいメニューがあることで会話がはずみました。



次回「白馬アイデアキャラバン」のご案内

2日間をかけて宿泊形式で、村民や村外の白馬ファンが集まり、今後白馬でやってみたいと思う活動を考えます。

【日時】◎8月6日(土)13時-18時◎8月7日(日)9時-15時【会場】白馬村保健福祉ふれあいセンター【申込方法】申込フォーム (<https://goo.gl/bYadpt>) または氏名(ふりがな)、住所、電話番号を keikaku@vill.hakuba.lg.jp までお送りください。

詳しくは、白馬村役場HP (<http://www.vill.hakuba.lg.jp/>) をご覧ください。